

## 北海道下水道事業経営戦略に関する懇談会（第1回）議事概要

- 1 日時 令和6年10月16日（水）午前10時～11時30分
- 2 場所 北海道立道民活動センター（かでの2・7）940研修室
- 3 出席者  
[座長] ナーヴィスアクアLLC代表 船水 尚行  
[構成員] 北海道大学大学院公共政策学連携研究部 教授 宇野 二郎  
北海道大学大学院工学研究院 教授 木村 克輝
- 4 次第
  - (1) 挨拶 建設部まちづくり局長
  - (2) 懇談会の構成員の紹介
  - (3) 開催要領について  
事務局から、開催要領に基づき、懇談会の目的等について説明を行った。
  - (4) 座長について  
事務局から、開催要領に基づき、建設部長の指名で船水尚行構成員を座長とすることを報告した。
  - (5) 議事
    - ①北海道下水道事業の概要について  
事務局から、資料に基づき、北海道が経営する公共下水道事業及び流域下水道事業の概要等について、説明を行った。
    - ②北海道下水道事業経営戦略の概要について  
事務局から、資料に基づき、「北海道下水道事業経営戦略」の概要等について説明を行った。
    - ③石狩湾新港地域公共下水道事業について  
事務局から、資料（一部非公開資料）に基づき、石狩湾新港地域公共下水道事業における経営状況やこれまでの使用料金の推移、経費削減策、適正な料金水準の検討、将来の施設整備の方向性などについて説明を行った。
    - ④各構成員から意見・課題等を聴取した。

※③以降、説明資料の中に特定企業から提供を受けた非公開情報や個別企業の情報が含まれることから、説明及び意見交換については、非公開で実施。

### 【主な意見・課題等】

（船水座長）

- ・料金水準の検討を行う上で、支出側の議論が大切である。W（ウォーター）PPPや再生可能エネルギー（PPA）の効果など、支出の削減に繋がるものを定量化できれば、その上で試算すると、使用料金水準が下がるのではないかと。
- ・雨水と汚水の公費負担割合について確認したい。
- ・特定公共下水道事業の特性を活かした新たな料金体系について検討はできないかと。

(宇野構成員)

- ・下水道使用料を検討する上で、汚水処理原価の現状を教えてください。  
また、道内の類似団体の汚水処理原価の状況と比較し、支出面で何が割高となっているのかを知りたい。
- ・同様の工業地区との使用料水準の比較が見たい。
- ・経営戦略を改定する上で、投資試算は40年から50年のストックマネジメント計画をベースに計算すべきとされている。今回の経営戦略の見直しは、計画期間の後半5年分のローリンのようだが、その場合であっても、財政計画は、残り5年を見通すだけでなく、少なくとも10年先を見据えたものにしてほしい。物価や金利の上昇についても考慮し、その上で、長期借入金がどこまで積み上がっていくのか、目の前の不足を充足するだけでなく中長期的な展望を見たい。
- ・経費回収率約30パーセントとのことだが、その内訳を教えてください。維持管理費は賄えていると思うが、資本費のどこまでを賄えているのか。資本費算入率についても教えてください。
- ・基本料金のある程度高めることは、水を使わない産業が立地しても経営の安定化を図れることから好ましいのではないか。
- ・企業立地を促進していく地域であり、下水道料金を安くしておく必要性が高いと思われる。しかし、その必要性は他の優遇策との関係から考えるべきだろう。他の優遇策にどのようなものがあるのかも整理してほしい。

(木村構成員)

- ・再生可能エネルギー利用については、世界中で考えていかなければならない問題。今の計画に入っていないのであれば、計画に入れるとどうなるかという議論が必要。
- ・石狩湾新港地域の事業規模が、流域下水道事業と比較して小さいのに、処理場費や支払利息が大きいのは、説明が必要になる。
- ・支出を含め経営の中長期的な将来ビジョンを見せていただきたい。

(事務局)

いただいた意見、課題等について、次回の懇談会までに整理する。

5 その他

事務局から、次回の開催予定日については、12月を予定しているが、日程調整の結果によっては1月の開催となることを説明。